

式辞

校内のところどころにはまだ雪が残っています。

それでも、桜の木に芽生えた小さな花芽は日に日に膨らみを増しています。命が躍動する季節の始まりです。

本日、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校第76回卒業式を挙行するにあたり、ご多忙の中ご来賓の方々にご出席をいただいております。また、遠方からは心温まるお祝いの言葉が届いています。本当に幸せなことです。卒業生、教職員ともに謹んでお礼を申し上げます。

また、保護者の皆様にはお子様のご卒業を心からお祝いを申し上げます。子どもたちは附属高校の校風である自主自律をしっかりと身につけた立派な若者に成長しました。附属高校での学びがお子様の人間的な成長にとって少しでもお役に立てたとするなら全ての教職員の喜びとするところであります。どうか今後とも本校への変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、卒業生の皆さん君たちとは一年間のお付き合いでした。君たちは附属高校の生徒とはこのようにあると印象づけてくれました。

昨年の四月に皆さんの遠足に同行しました。バーベキューをするのに満足に火を起こせない姿、食材にチョコレートを大量に準備している姿、まきの追加を何度も頼みに来る姿、その他もろもろ、どれもが私にとっては驚きでしたがそのうち何とか解決して形にしていく姿、新たな形を作っていく姿がとても面白く頼もしかったことを覚えています。運動会の集団演技では、後輩たちをリードして能登の復興について決意を語る姿、歌の祭典では個性あふれるパフォーマンスで自分たちの心意気をしっかりと伝える姿、どの場面でも常識にとらわれず常識を逸脱せず自分たちの主義主張を表現し実現する皆さんの姿に創立以来引き継がれている校風を感じてきました。

さて、今日で皆さんは人生の新たな扉を開きます。私は、皆さんがこれからどんな人生を歩みどんな大人に成長するのかとても楽しみです。そこで皆さんの心の片隅にとどめてほしい思いを伝えます。

人間には大きく分けて二通りの生き方があります。自分のことで頭がいっぱいになってしまう生き方と他人と助け合って自分を実らせていく生き方です。使命感を抱き、自分の学びや日々の生活を通して少しずつ人との関係を実らせていける人は幸せな生き方をしていると言えます。人との関係を実らせる過程であいさつや身だしなみに代表される「礼儀」は互いの人格を大切に想う無言のメッセージであり、「ありがとうございます」という言葉は品性の現れです。君たちには品性をまとい、たくさんの仲間をつくり、この地球上で有史以来延々と続いている貧困・飢餓・戦争そして自然災害という課題の解決に関

心を持ち続けてほしいと願います。「愛の反対は憎しみではない無関心である」。これはノーベル平和賞を受賞したマザーテレサが語った言葉です。これから皆さん121名は121通りの場所で日々様々なことに遭遇するでしょう。楽しいことや嬉しいこと、悲しいことやどうしようもないこと。自分のことでいっぱいになってしまうかもしれません。でもどんなときにも他人と助け合って自分を実らせていくことをあきらめず、自分と身近な人たちそして地球上の平和が実現するように関心を持ち続けてほしいのです

おわりに、日本初の同時通訳者で「難民を助ける会」創設者である相馬雪香さんのスピーチを紹介します。

『世界はますます小さくなっていくばかりです。技術が進めば進むほどいろんな情報が流れたときに何が正しいか、何が間違っているかを判断する能力は一人ひとりが身につけなければならないものだと思います。そして、自分が得たものを日本や世界のために使ってほしいと思います。「世界のことを考える」というと『自国の問題は放っておくのか』という人がいますが、自国のことを放っておくわけではないのです。世界に対して心を開いていくことがどんなに大切なことか日本人が世界に関心を持ち、そして日本という国が世界のために尽くせる国になるよう皆さまのお力添えを願っています』

令和7年3月4日

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校長

南波 聡